

北上市議会産業建設社常任委員会と

北上工業クラブとの意見交換会概要報告書

1 開催日時

平成 26 年 11 月 10 日(月) 午後 5 時から 7 時まで

2 開催場所

ブランニュー北上 3 階

3 議会より報告

川邊委員長より、別紙（6 ページから 10 ページ）のとおり報告後、質疑応答。

【工業クラブ】

奥州市江刺中核工業団地では、上水を工業用水として利用することができるように配慮されているが、北上市内でも同様のことができないのか。

【北上市議会】

奥州市がどのような方法を取っているのか調査してみる。可能であるのであれば、当局に働きかけたい。

【工業クラブ】

九年橋の工事期間が長すぎる。新九年橋は、現状でも通勤時間帯は混雑しているのに、冬季期間になればよりひどい渋滞になる。仮に事故が起きれば労災となり、企業側に負担となるので、どうにかしてほしい。

【北上市議会】

九年橋の車道部分の工事は、今年度に終了予定であり、平成 27 年 4 月以降は通行できる。但し、歩道部分は、幅を 1 m から 3 m に拡幅する工事を平成 27 年度に実施するため、歩道の利用はそれ以降となってしまう。

【工業クラブ】

下水道の整備をお願いしたい。

【北上市議会】

インフラ整備は、多額の費用がかかるため、なかなか進んでいない。

【工業クラブ】

花巻市側の国道4号線拡幅は、いつになるのか。従業員から多くの要望が寄せられている。また、花巻市から中部病院に抜ける道路は、いつ完成するのか。

【北上市議会】

国道4号線拡幅については、毎年要望をしている。中部病院から北方向の道路は、用地買収がほぼ終わっており、将来的には国道のバイパスとして機能する予定である。

【工業クラブ】

㈱東北佐竹製作所であるが、西側からシティプラザ前に向かう自社前の道路は、特に冬場になると交通渋滞が激しい。線路下に関しては、凍結して上れないこともある。北上市の除雪はお粗末であり、他県から来た人からも指摘される。

【北上市議会】

㈱東北佐竹製作所前の道路に関しては、内容を把握しており、当局に要望を出している。また、除雪に関しては、雪寒道路への国の補助金が増額される見込みであり、これまでより注力できると考えている。

4 北上工業クラブより報告

【谷村電気精機㈱】

人手不足が深刻であり、若い人が安心して働き、定住できる市になってほしい。北上市で子供を産み、育てたいと思える環境を望む。

【㈱東北佐竹製作所】

行政が取り組んでいる、ものづくり支援施策は、本当に地元企業のためになっているのだろうか。企業の意向に沿った行政支援でなければならないと思う。

【東綱機械㈱】

人手不足が当社も課題となっている。若手と女性の確保が難しい。人材育成を進めるために、階層別セミナーのような教育が必要である。

【㈱アイメタルテクノロジー】

生産量が減っている中で、電気料金の値上げが費用増につながり、経営に苦慮している。人件費抑制のために派遣社員を使わざるを得ない状況である。北上市は、企業を誘致して人が足りなければ、外国人を呼ぼうとしているようだが、当社では既に外国人を雇用しており、課題が多く上がっている。

【東北日発株】

当社は、生産品の8割強がトヨタ東日本関連の自動車部品であるが、平成26年度は受注台数が前年度比7万台も減少した。来年度は、平成25年度並みに戻ると予想されているが、非常に不安である。

【岩手製鉄株】

鋳物業は、技術力が必要であり、一人前になるまで年数がかかる。しかし、直近2年は募集しても人が入っておらず、人材確保が難しい。

【株北上エレメック】

企業誘致が進み、労働力不足に直面している。特に女性の確保が困難である。労働人口を増やすことが急務である。

【富士善工業株】

人材の確保が難しい。当社は、約4割が女性社員となっており、新規立地企業に流出しないか心配である。

【株薄衣電解工業北上工場】

社員の確保が大変である。毎年高卒者を採用しているが、出身校によって定着しにくい事例があり、指定校採用を止め、市外を含めて幅広い採用をしている。県内の高校教師は、県内の企業を勉強しておらず、とりあえず県外の大手に就職させて、経験を積んだ後、県内に戻ってくれば良いと軽く考えている。一度県外に流出した人材はなかなか戻ってこないなので、新卒の段階から県内に就職させるように働きかけるべきだ。

年金受給者等高齢者の活用についても考えなければならないと感じている。

【尙夢工房】

円安の影響で輸入資材が高騰している。販売単価を引き上げなければならず、苦しい状況である。個人的には、消費税増税を止めるように市から国へ働きかけてほしい。

質疑応答

【北上市議会】

先日北上商工会議所と意見交換会を開催したが、同様に人材確保について課題が出た。外国人の雇用は考えられないのか。

【㈱アイメタルテクノロジー】

当社では、従業員を現場へ出す前に研修を受けさせる必要があるが、研修を受け終わったら勝手にいなくなったり、午前中は出勤していたが、午後は帰ってしまったりする。文化の違いがあるようだ。また、期限が到来したら自国へ帰らなければならず、入れ替わりが頻繁にある。人材が不足しているからといって安易に外国人を頼るのは、難しいと考えた方がいい。

【北上市議会】

人材確保が最大の課題であるので、当局に強く働きかけたい。

【工業クラブ事務局】

工業匠祭を3年に1度開催しており、今回は平成28年となるが、国体開催と重なり会場が利用できないため、関係機関に働きかけ1年前倒しし、平成27年に開催することになった。今回は、市外の高校生も招待し、県内にも素晴らしい企業がたくさんあることをアピールできたので、次回も同様に働きかけたい。

5 出席者

【産業建設常任委員会】

委員長	川邊津好
副委員長	齊藤律雄
委員	藤原正
委員	武田勝
委員	菅野豊志
委員	八重樫善勝
委員	千葉一夫
委員	佐藤重雄

【北上工業クラブ】

会長	谷村久興（谷村電気精機㈱ 代表取締役会長）
副会長	秋井文夫（㈱東北佐竹製作所 代表取締役工場長）
副会長	帯向敏晴（東綱機械㈱ 代表取締役）
理事	佐々木宏（㈱アイメタルテクノロジー 取締役兼上席執行役員）
理事	片山仁彦（東北日発㈱ 代表取締役社長）

理 事	佐 藤 満 義 (岩手製鉄(株) 代表取締役社長)
理 事	菅 原 康 裕 (株北上エレメック 代表取締役)
理 事	千 田 富士夫 (富士善工業(株) 代表取締役社長)
理 事	西 谷 重 夫 (株薄衣電解工業北上工場 常務取締役工場長)
監 事	藤 田 正 子 (有夢工房 取締役会長)
専務理事	本 舘 伸 也

【議会事務局】

事務局長	昆 雅 幸
書 記	藤 原 一 隆

【別紙】

北上工業クラブ・北上市議会産業建設常任委員会意見交換会

本年2月に開催した北上工業クラブ様との意見交換会は、「北上市の工業振興の現状と課題について」をテーマとし、様々な意見や要望が出され、活発なものとなりました。皆様からのご意見、ご要望につきましては、八重樫七郎議員及び小原敏道議員が、3月定例会の代表質問の中で、市の現状とこれからの方針等について市に答弁を求めました。その主な内容は、次のとおりです。

2月意見交換会出席議員（役職は当時）

委員長 八重樫 七 郎
副委員長 武 田 勝
委員 川 邊 津 好
委員 高 橋 光 博
委員 星 俊 和
委員 八重樫 善 勝
委員 高 橋 孝 二
委員 鈴 木 健二郎

①環境整備に係る要望について

【北上工業クラブ】

通勤の際の道路状況が悪い。冬季期間は、特に渋滞がひどい。国道4号線の拡幅など、国にお願いすることだとわかっているが、早急に解消していただきたい問題であるので、市からも働きかけてほしい。

【代表質問】

市内企業から要望されている黒沢尻工業高等学校近くの道路整備などインフラ整備に対するフォローアップは、どのように進められているのか。

【答 弁】

企業からの要望事項に対するフォローアップについては、現在市幹部職員、担当部署、雇用対策協議会の雇用対策推進員によるものなど、年間延べ500回以上の企業訪問を実施しており、その中で景況感や雇用状況、市に対する要望等を伺っている。訪問でいただいた要望等については、急ぎ対応すべき事案の場合は直ちに対応している。例えば、道路除雪等に対する要望の場合、道路環境課に直ち

に連絡を取り、訪問当日中に現地確認まで行う対応を心掛けている。今後も商工部を中心に、市が一体となって充実したフォローアップを行っていく。

②防雪柵の設置について

【北上工業クラブ】

工業団地内は、冬季期間に雪の吹き溜まりができ、通行に支障をきたすところがある。防雪柵の設置があればいいと思う。転勤して北上にきている社員にとっては、冬道が非常に怖いと言っている。

【代表質問】

工業団地は風がとても強いので、防雪柵設置の検討はできないのか。

【答 弁】

防雪柵設置は、資金や制度の活用についての課題があり、難しい状況であるが、企業の集積が進むことによって、インフラ整備の必要度合いも、また見直しが必要になると思う。

③工業用水に係る整備について

【北上工業クラブ】

後藤野工業団地内の下水道整備について、団地整備の時には下水道が整備される予定であると話されたと記憶しているが、いまだに整備されていない。会社の処理施設は社員の増加により会社設立の際の施設では小さく、処理を頻繁に頼む必要があり、その分の経費もかかっている。工業用水がひかれていない工業団地は高い上水を使用しているので、ぜひ工業用水を整備してほしい。

【代表質問】

工業用水がひかれていない地域は、代わりに高い上水を使用しているので支援が必要ではないか。また、後藤野工業団地の下水道整備をいち早く進める考えはないか。

【答 弁】

インフラに関する要望のうち、工業用水については、場所によってエリア計画外であるなど難しい状況であるが、県と連携を取りながら必要に応じて対応していきたい。

④人材の確保について

【北上工業クラブ】

製造業離れしている若者を北上に定着させるような取組みを考えるべきである。

【代表質問】

高卒者の地元就職支援策と企業の連携について、高卒者の地元就職が増え、職場に定着する環境整備や若い世代が地域行事に参加できるような環境づくりをすべきではないか。

【答 弁】

就職先の状況については、就職者全体の約7割の生徒が県内を希望しており、このうち北上公共職業安定所管内への就職率は、例年約4割となっている。このように地元への就職を希望する高校生が多いことから、地元での雇用の受け皿の確保が求められており、高校生の求人受付の開始に先立ち、北上工業クラブと北上商工会議所に対し、積極的な求人について要請活動を行っている。

この他、北上雇用対策協議会では、公共職業安定所と連携し、高校生と地元企業のマッチングを図るため、就職担当の先生を対象にした情報交換会を行っている他、求人事業所との就職面談会を花巻地区と合同で開催している。高校生の地元への就職支援については、特にも当地域の経済発展に欠かせない要件でもあり、地元への就職促進を図るため、今後も関係機関と連携し推進していきたい。

地域行事への参加については、個別具体的に要請するのは難しいかと思われるが、ライフワークバランスの観点からであれば可能であるので、今後企業訪問の中で検討していきたい。

⑤技術力向上における支援について

【北上工業クラブ】

北上のものづくりのレベルアップを図る体制を強化してはどうか。

【代表質問】

中小企業の技術力向上のため、基盤技術支援センターの具体的支援策と、3次元CADの普及状況と支援体制は、どのようになっているのか。企業からは、機器の台数増、ワンランク上の機器導入、新規測定機器の導入などの要望があるようだが、機器の更新時期も含めて計画はどうなっているのか。

また、市内企業から要望されている技術交流センターの使用料見直しについては、どうなっているのか。

【答 弁】

中小企業の技術力向上への支援策については、平成23年度にスタートした北上市工業振興計画において、中小企業活性化プロジェクトとものづくり人材育成プロジェクトが柱となり、重点的に推進している。技術者の育成に取り組んでいるいわてデジタルエンジニア育成センターを活用し、市内中小企業への技術の普及と育成を支援していきたい。

基盤技術支援センターに設置されている精密測定機器については、平成 25 年度にデジタルマイクロスコープと表面形状測定器を更新した他、平成 26 年度も真円度測定器の更新を予定している。なお、新たな機器の導入については、企業からの要望を参考に、利用頻度や操作性等を考慮し、検討していきたい。

技術交流センターについては、利用料金改定後、平均年間利用件数 154 件が平成 24 年度は 53 件と減少したことから、こうした状況を踏まえ、施設の役割や機能を含めて、施設の有効活用の方策について検討する。

⑥子育て支援について

【北上工業クラブ】

電気料金の値上げにより経営が大変である。土日に工場を稼働させることで電力会社から補助が出るが、土日出勤のためには子供を預ける施設が必要な従業員もいるため、土日も預かることが可能な保育所の開設があると助かる。

【代表質問】

子育て環境の整備について、電気料金の関係で日曜祝日に出勤となる従業員がいるが、保育所の開設等は考えられないのか。

【答 弁】

電気使用量が逼迫している時に、臨時で保育園を土日も開設したことがあったが、預けた人数が少なかったので、実態を確認の上、対応したい。

⑦企業誘致の見通しについて

【北上工業クラブ】

工業団地の造成へ多額の投資をしているので、企業誘致を頑張ってほしい。

【代表質問】

今後の企業誘致、工業団地の企業集積をどのように考えているのか。

【答 弁】

企業誘致、工業団地の考え方については、南部工業団地、産業業務団地などへの新規立地が平成 25 年度は 6 件となり、リーマンショック前の水準に達している状況となっている。今後の進出予定については、自動車関連のほか、物流や生産拠点見直し等に伴う問い合わせを頂いており、南部工業団地においては、企業オーダーに応じた区画分割を提案するなど、新規立地に向け、継続して誘致交渉を進めているところである。

北上産業業務団地については、比較的小さな区画を求める企業に提案して交渉を進めており、基盤技術支援センターや岩手大学工学部附属金型技術研究センター、いわてデジタルエンジニア育成センター等支援機関の集積を生かし、IT企

業や研究開発センター等幅広い業種の誘致を進めていく。

後藤野工業団地においては、第3工区の整備事業と並行して、工場建設に着手した合板工場と関連する産業集積を図るなど、早期分譲に向け取り組んでいる。